

# 長崎の林業

小曾根星堂書



五島市森林のつどい 森林学習の様子

3

## 目次

- 林政だより 林業経営の強い味方！～林業関係金融制度のご紹介～…2～3
- 特集記事 ほしか 星鹿バンブーオーケストラ……………4～5
- 林業普及だより 壱岐市での搬出間伐の取り組み……………6
- 地方だより・島原 里山林整備活動（雲仙市）……………7
- 地方だより・五島 令和元年度 五島市森林のつどい……………8
- 林業団体情報 樹木医は木のお医者さん……………9～10
- センターだより 農林水産業みらいプロジェクト助成事業成果報告会  
～コウヨウザン最前線・広島県での取り組み～……………11
- 県産地域未利用材利活用促進研究会 ながさ木 iroiro 展 in 佐世保市役所……………12



2020  
No.774

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。  
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

## 林業経営の強い味方！ ～林業関係金融制度のご紹介～



### 林業を経営する皆様へ

「新しい機械を入れたいけど資金がない・・・」「林業経営のため運転資金を融通したい・・・」「製材する丸太を買う資金を融通したい・・・」「しいたけ栽培に参入したいけど設備がない・・・」等、林業に携わる方々の資金面での問題を解決するために林業専用の制度資金があります。

今回は、そういった林業・木材産業者の安定した経営やレベルアップのお役にたてる林業の制度資金の紹介をします。

### 林業の制度資金の取扱先

林業の制度資金は主に県（林野庁の制度を活用。）と日本政策金融公庫が取り扱っています。また、（独）農林漁業信用基金が行っている信用保証制度もあります。こちらは、融資機関から事業資金を借り入れる場合、農林漁業信用基金が債務を保証することにより、円滑かつ有利に借入が出来るようお手伝いをする制度です。

### 長崎県が取り扱う制度資金

県では大きく2つの制度資金を取り扱っています。どちらも大変低利で有利な資金ですので、是非ご活用ください。

### ①林業・木材産業改善資金

<利率> **無利子**

<貸付対象>

- ・高性能林業機械や木材乾燥施設など、新たな生産方式の導入
- ・防振装置付きチェーンソーや人員輸送車など、林業労働に係る安全衛生施設の導入
- ・シャワー施設の導入など、林業労働に従事する者の福利厚生施設の導入 etc...

※対象の人は林業や木材産業に携わる方ですが、会社の場合は資本金の額もしくは出資の総額が1,000万円以下の会社又は従業員の数（木材製造業を営む者は300人）以下である必要があります。

※貸付限度額は、下記のとおりです。

個人：1,500万円 会社：3,000万円

会社以外の団体：5,000万円

（県の予算に限りがありますのでご注意ください。）

<借入手続>

これまでは県から直接借りる直貸方式をとっていましたが、今後は、金融機関を通して借りる転貸方式を推進するため、金融機関と調整を行っています。転貸方式を活用すると、（独）農林漁業信用基金の信用保証制度も活用することができます。

●金融機関からの貸付(転貸方式)←推進中



②木材産業等高度化推進資金

<利率> 1.0%～1.6% (令和元年度時点)

<貸付対象>

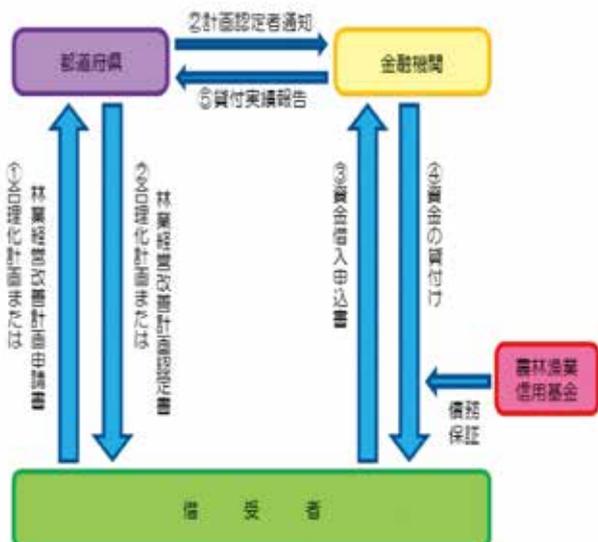
- ・造林に必要な資金 (作業労賃、苗木代等)
- ・素材生産に必要な資金 (立木購入代金、作業道の開設・改良費用、作業委託費用等)
- ・素材等の引取りに必要な資金 (購入代金、輸送費)
- ・木材の加工に必要な資金 (作業労賃、光熱費等) etc...

※貸付限度額は、5,000万円～3億円

(県の予算に限りがありますのでご注意ください。)

<借入手続>

金融機関を通して借りることが出来ます。現在長崎県では十八銀行と親和銀行、農林中央金庫で取り扱っています。それ以外の金融機関を通して借り受けたい場合も対応できる場合がありますので、ご希望の際は長崎県林政課普及指導班までご相談ください。



(独)農林漁業信用基金による信用保証制度

この制度は林業に携わる人が必要な資金を借りる場合に、その借入に係る債務を保証して、これらの資金の融通を円滑にすることを目的として作られました。

また、②木材産業等高度化推進資金を活用する際にこの保証を受けると、利率を0.4%低く設定することができます。金融機関からの融資や県の制度資金を活用される際は、こちらの制度の活用もご検討ください。

<保証内容>

一般資金を借りる場合

保証料率：年0.2%～1.8%

保証割合上限：80%

(間伐、高品質材生産、新規事業の立ち上げに係るものは一定額までは100%を上限に可能)

保証期間：運転資金：3年 (特認7年)

設備資金：15年

林業・木材産業改善資金(転貸)を借りる場合

保証料率：年0.1%～0.9%

保証割合上限：100%

保証期間：10年 (特認12、15年)

木材産業等高度化推進資金を借りる場合

保証料率：年0.1%～1.35%

保証割合上限：100%

保証期間：短期1年 長期5年

林業の制度資金を利用される際には

主な制度資金・信用保証制度の紹介は以上です。これらの借入には、事前に計画を作成し、県が認定する必要があるものがほとんどであり、融資までには一定の時間を要します。借入をご検討の際には、なるべく早い時期にご相談をお願いします。

お問い合わせ先

○県林政課普及指導班

Tel:095-895-2990

○独立行政法人 農林業信用基金(林業部門)

Tel:03-3294-5585

(林政課 普及指導班)



## 【特集記事】

# ほしか 星鹿バンブーオーケストラ

今回は、松浦市で竹楽器の演奏をされている星鹿バンブーオーケストラを紹介します。

### 産声

松浦市の星鹿町は北松浦半島の北東部からさらに伊万里湾に向かって突き出した、荒波打ち寄せる半島の先端に位置します。

ここが松浦水軍（松浦党）を生んだ地であることは良く知られています。ご紹介する『星鹿バンブーオーケストラ』もまた、この地で産声をあげました。勇壮さで語り継がれる松浦水軍と、のどかな竹の音色を奏でる楽団は、一見かけ離れたイメージを抱くのですが、その歩みを伺うと、「なるほど、さすが松浦党の末裔だ」と頷かされるものでした。

仕掛け人は、公民館指導員をされていた池田理子（みちこ）さん。長く公民館活動に携わってこられ、一地区公民館の活動とは思えないほど数々のコンテンツを打ち出しておられました。そんな池田さんが、平成12年の24時間テレビで、東京のプロ「バンブーオーケストラジャパン」の演奏をたまたま目にし、魅了されたことが全ての始まりでした。池田さんの行動は早く、翌春には、これまでの活動で培ってきた人脈を頼りに、まず12名の楽団を立ち上げました。バンブーオーケストラはおろか、普通の器楽経験も、楽器もない楽団が産声をあげま

した。楽器を見よう見まねで手作りするところからのスタートです。

### 船出

乾燥により瞬く間に音程が狂ってくるのが明らかになると、地元のいりこ製造工場に油抜きや乾燥の行程での協力を取りつけ課題を克服。翌平成14年には、きっかけとなった「バンブーオーケストラジャパン」の楽器製作者を呼んで、楽器製作の指導を仰ぎました。

ようやく演奏の練習が開始されたのは、結成から1年半余りたった平成14年秋、楽譜も読めない素人集団のよちよち歩きのスタートにもかかわらず既に開催2ヶ月を切っていた市民音楽祭の出演を決めてしまいます。

活動は、瞬く間に県を超えて注目を浴び、多くのマスコミや、大学が視察に訪れます。大阪フィルハーモニーのコントラバス奏者やバンブーオーケストラジャパンといった、一流演奏家との交流、コラボ演奏など、活動は地域発のムーブメントともいえる広がりを持つものへと発展しました。マスコミの報道などを通じて九州はおろか全国区の知名度を得ていきます。まさに、波頭を

切って突き進む水軍の姿を彷彿とさせるものです。総大将たる池田さんは病氣療養のため、現在はアドバイザーとして関わっておられ、直接お話を伺うことはできませんでしたが、触先に立って前を見据える姿はまさに松浦党を彷彿させるものです。

メンバーは皆仕事をもった社会人、週末の夜八時、人気のなくなった公民館で明かりを灯しての練習がその活躍を支えています。



練習の様子

## 音色

インタビュー中ずっと、『埴生の宿』、『さんぽ』といったなじみのある旋律が竹の柔らかい音色で奏でられていました。中心となるのは、マリンバやティンパニと同じように音階をもった打楽器。木製マリンバの向かってくる音色とも違う、身を包み込むような音です。風に揺れる孟宗竹林に入ると感じる「幽玄」を音にしたとでも言えいいのでしょうか。

並べられた楽器の中でひときわ目を引くのが、巨大な尺八を思わせるスーパーマウイという楽器。サイズは、アルペンホルンほどもあり、それが、長時間煙でいぶされた、いぶし銀の輝きを放っています。音色を聞きたいとおねだりしたところ、勇壮な八木節を披露してくれました。同じベースを刻む重低音でありながら、和太鼓の腹に響く振動音とは違いこちらは目を覚ますような破裂音。水軍の出航を告げる号砲さながらです。さすが松浦党。

## 竹林への思い

半ば厄介者の竹林が、楽器の演奏と製作が同じ比重を持つ楽団にとっては、大切な

資源です。製作を担当する川本さん、増山さんは、日々の暮らしの中でも竹林に目が行くようになったとおっしゃいます。切り出しに当たっても、昔から言われる木六竹八（旧暦）の伐採適期を守り10月に行います。三年物が最も良材になるそうですが、見ただけでそれが分かるようになったそうです。伐採もそのあと健全な竹林に早く戻るよう、1.5mほどの間隔で筍が生えてくるようにしながらやっているとのこと。人が用を満たすために山に働きかけ、それがやがて、自然景観としても成立していくという人と里山の関係がここにも見られます。



孟宗竹で作成した筒太鼓とスーパーマウイ

## 悩み

目下の最大の悩みは、団員の減少。演奏を担っているのは4名にまで半減してしまいました。原因はメンバーの転出や家族の介護、また小学生たちが高学年になるにつれて、学校の部活などに忙しくなり、抜けて行ったためです。少子化がそれに拍車をかけました。公民館を拠点とした子供会活動が、全国規模で廃れつつあることと原因は重なります。このような、世代をまたぐ文化活動はとても貴重で、子どもたちの育成上も重要な機会であるはずなのに、これはとても残念なこと。この記事を書きかけに、興味を持つ方が一人でも現れることを願っています。

問い合わせ先

松浦市立星鹿公民館 利用団体

「星鹿バンブーオーケストラ」川本一幸

電話：0956-75-1630

(NPO 法人地域循環研究所)

## 林業普及だより

## 壱岐市での搬出間伐の取り組み

## これまでの取り組み

壱岐市内では島内産の木材の需要が無く、島外出荷では収益の見込みが立たないため実施してこなかった搬出間伐ですが、平成30年度から県営林で試行的に開始しました。

平成30年度は約1.5haの間伐を壱岐市森林組合が受託し、作業を行いました。高性能林業機械もグラップルも無い状態で、チェーンソーとクレーン付トラックでの作業の為、大変苦勞されていました。特に集材作業は、悪天候の影響で作業道にトラックが入れないことも多く、林内作業車を活用することで何とか工期内に作業を終えられました。

材の売払いも年度内に終え、県営林の土地所有者の方にはわずかながら収益をお返しすることができましたが、間伐作業を受託した森林組合は大幅に作業経費の足が出てしまう結果となりました。

## 今年度の取り組み

今年度も県営林の搬出間伐を約1.4ha実施しています。昨年度に引き続き、今年度も作業を受託した壱岐市森林組合は、前回の作業から効率化を図るためにはグラップル等の掴む機械が必要ということで、関係各所に相談し経費比較等を行いました。その結果、ながさき森林環境税の補助事業を活用し、フェラーバンチャーザウルスロボのリースを受けることとなりました。組合で高性能林業機械を使用するのは初めてであったため、フェラーバンチャーを使用した森林作業道の開設方法についての研修を



作業道開設研修

実施、講師として対馬市から(株)西林の西山社長に來島いただき、実演指導をしていただきました。

研修では組合の現場作業員2名が交代で操作し、伐倒、根株除去しながらの作業道開設についてご指導いただき技術の習得に努めました。

実際の作業では造材や集材にもフェラーバンチャーを活用し、作業道開設も含め2名体制で約1カ月間、すべての作業を終えることができました。



集材状況

## 昨年度との比較

フェラーバンチャーのリースにより、作業効率が上がり、生産性は2倍以上になりました。特に最も時間を取られていた集材作業を大幅に短縮することができました。また、土場での搬出材積管理において、昨年度は手計算していたところをスマートフォンの材積計算アプリを使用したことで管理が容易となり、素早く次の作業の指示ができたことも効率的な作業に繋がったと考えています。

## 今後に向けて

来年度以降も県営林での搬出間伐は続けていく予定です。壱岐市内の民有林のスギヒノキの人工林は約800haと小規模ですが、木材として活かすために、いずれは私有林の搬出間伐による出荷で木材の販売収入を所有者へ還元できるように、継続的に作業効率の改善等に取り組んでいきたいと考えています。

(壱岐振興局 農林整備課)

## 里山林整備活動（雲仙市）



吾妻林業振興会の皆さん

1月26日（日）、吾妻林業振興会による里山林整備活動が雲仙市内で行われました。これは「森林・山村多面的機能発揮対策事業」によるもので、平成27年から毎年行われています。

作業を始める前に安全第一を心がけるよう打ち合わせが行われました。当日は早朝に雨が降っていたため、晴天時より更に注意して作業を始められていました。

今年で4年目になる今回は、前回までの

竹林整備に加え、枯損木の除去などの作業についても行われるようになりました。整備が行われる以前は侵入竹林が多く、つるが絡まり、雑草木も生い茂った状態でしたが、作業後にはすっきりと先が見渡せるほどになっていました。

吾妻林業振興会の西村会長は、「近年高齢化が進み、参加人数の減少もみられますが、山を守っていくためにも今後も活動を続けていきたい。」と語られていました。



整備前（平成28年度）



整備後

（島原振興局 林務課）

## 令和元年度 五島市森林のつどい



令和元年10月19日（土）、五島椿園にて「五島市森林のつどい」が開催されました。このイベントは、主に地域の小学生を対象とし、学校での学習とは異なった緑に囲まれた環境の中で、身近にある森林の大切さを学んでもらうことを目的に毎年開催されています。今年度は午前には森林学習、午後には体験学習を行いました。

森林学習では、「私はだれでしょう？」というレクリエーションを行いました。これは、名前当てゲームの一種です。まず班毎に森林に関するモノ（生き物等）を他の班に分からないように考えてもらい、次に班対抗で「それは何色ですか？」などの質問・回答を繰り返す、最後に各班で決めたモノを当て合うというものです。各班からは「つばき」、「シカ」といったものが挙げられました。レクリエーション形式にすることで、子どもたちからは様々な意見が飛び交い、

「森林には様々な動植物が関わり合い、共存している」ことを楽しみながら学んでもらいました。

体験学習では、丸太切り体験、つばき油作り体験を行いました。

丸太切り体験は用意した丸太をのこぎりで好きな長さに切ってもらい、その丸太に絵を描いてもらいました。中々できない体験ということもあり、子供たちも真剣な様子で取り組んでいました。

つばき油作り体験では、五島の特産品であるつばき油が出来るまでの過程を体験してもらいました。つばき油自体を見たことはあっても、出来るまでの過程を見るのは初めてという子どもも多く、特に最後のつばき油ができる瞬間はみんな目を輝かせながら見ていました。

子供たちにとって、普段学校では学べないことを学べた良い機会になりました。



森林学習の様子



丸太切り体験の様子

(五島振興局 林務課)

## 樹木医は木のお医者さん

樹木医は、天然記念物のような巨樹・名木から街路樹や庭木などの身近な樹木まで、傷んだり病気になった樹木の診断と樹勢回復、さらには樹病の予防や後継樹の保護育成などに携わる専門家です。

一般社団法人日本樹木医会は、1992年6月に任意団体として設立された日本樹木医会を母体とし、2009年7月、法人化により新たな出発をしました。現在正会員数は約2,200名、この他に多数の法人及び個人が賛助会員として入会しています。

樹木に対する社会的ニーズは、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、自然災害の防止、青少年の環境教育、心身の健康づくりなど多様化してきています。

このような社会的役割に応えるため、知識や技術さらには見識の向上を努めるとともに、地域社会等と連携しながら社会貢献活動の拡充に努め、環境の保全に貢献することとしています。

### 長崎県支部での活動

現在の長崎県支部の会員数は9名で構成されています。総会、連絡会等を開催して会員間の情報交換・研修会等を行っています。

また、天然記念物等の貴重な樹木の保全から庭園木・造林木等の健全な育成に取り組んでいるところです。

さらに、被爆地ならではの取り組みとして、長崎市の「被爆樹木パトロール」に協力しています。

長崎市は2017年度から被爆樹木を将来にわたって保存していくために、樹木医による「被爆樹木パトロール」に取り組んでいます。また、2018年12月、被爆樹木の保存整備を目的とした「クスノキ基金」を設置しました。

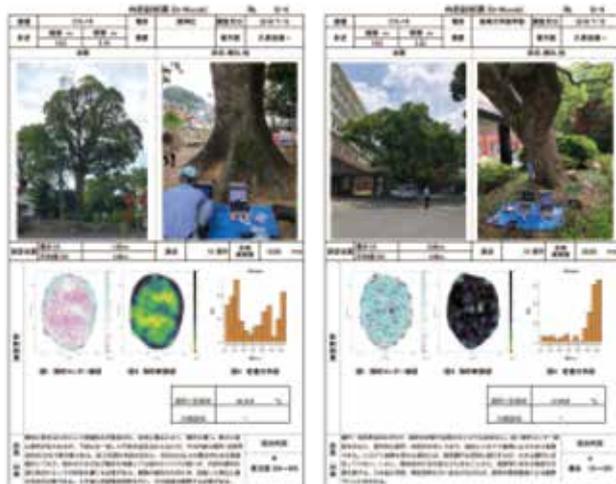
県支部としても、永年課題としてきた被爆樹木の保存に向けての活動が大きく前進したことで、2017、18年度のパトロール結果を基に「長崎市における被爆樹木の保存と診断」と題した報告をまとめ、2019年4月、



「被爆樹木パトロール」の様子

樹木医学会の学術誌に掲載しました。

報告では、被爆樹木パトロールのような簡易診断を継続することが望ましいと指摘しました。被爆樹木の状態によっては、超音波を当てて内部の状態を調べる精密診断を定期的実施する必要があると提言しています。



被爆樹木の内部診断票

パトロールは、継続して取り組むことによって、被爆樹木一本一本のカルテができます。定期診断を毎年実施すれば、それぞれの被爆樹木が過去にどのような状態にあったのか記録が蓄積されていき、処置が必要になった際に個々に、適切な処置が可能になると考えています。

戦争を経験した被爆樹木は国民にとっての遺産といえます。戦争を経験していない若者の平和教育の材料にもなることから、保存に努めていきたいと考えています。



「被爆樹木」



研修の様子

\*\*\*\*\*

### 「クスノキ基金」

長崎市は、被爆の惨状を後世に伝える貴重な被爆樹木の保存活用を推進しています。

被爆樹木を将来にわたって保存していくために、ふるさと納税をはじめ個人や企業の皆さまから広く資金を募り、その受入先として、「クスノキ基金」を設置しました。

「クスノキ基金」は福山雅治氏がホームページやコンサート等で呼びかけ、全国の方から寄せられた、(株)アミューズを窓口とした「クスノキ募金」が、長崎市に寄附されたことを機に設置したものです。

\*\*\*\*\*

(一般社団法人日本樹木医会長崎県支部)

## センターだより

農林水産業みらいプロジェクト助成事業成果報告会  
～コウヨウザン最前線・広島県での取り組み～

発表の様子

## はじめに

広島県では、現在注目されている早生樹コウヨウザンの試験研究を全国に先駆けて行っています。今回、農林水産業みらいプロジェクトの助成を受けて、平成29年度から3年間行われた事業の成果報告会に参加しましたので紹介します。

## コウヨウザンとは？

コウヨウザンは、中国や台湾原産の針葉樹で成長が早く萌芽更新可能なことから新たな造林樹種として注目されています。

報告会では、苗木生産に関してスギ、ヒノキより病害に弱く、立枯れ病による集団枯損が発生したことや、植栽はやや湿潤地が適地なようだが、水田跡地では排水対策の必要があること等が報告されました。調査の結果、収穫予想表での比較では、スギの2倍程度の成長量を示しているそうです。また、植栽時に問題となっているウサギの被害は忌避剤を展着させた大苗を植栽することで軽減でき、下刈り回数の削減にもつながる可能性があるとのことでした。

材質試験の結果について、曲げ強度はスギ、ヒノキと遜色なく、建築用材として利用できる強度があることが紹介されました。

また、共同研究の協定を締結することを

受け、台湾から来た研究者が今後の共同研究への期待や萌芽更新の際の仕立て方について報告を行いました。萌芽更新させる場合、伐採後3年以内に1～3本に仕立てるのが望ましく、なるべく地際にある芽を残すことで成長を促すことができるとのことでした。

## おわりに

最後に、元林野庁職員で現在は物林株式会社で新事業担当部長を務める大貫氏の講演がありました。なぜ国内の木材価格が低下したのか、歴史を紐解いての話から、それを解消するためには東日本ではカラマツ、西日本ではコウヨウザンしかない興味深い話も聞くことができました。

当日は、多くの参加者で会場はほぼ満席となっており関心の高さが伺えました。

長崎県でも早生樹現地適応化試験としてコウヨウザンをはじめ数種類の早生樹を植栽し、成長特性や病害等について試験を行っているところです。今後もコウヨウザンをはじめ早生樹について試験研究を行うとともに、情報収集に努めていきます。



会場に展示されたコウヨウザン材

(農林技術開発センター)

## 県産地域未利用材利活用促進研究会 ながさ木 iroiro 展 in 佐世保市役所



ノキ、ネムノキ、ケヤキ等の広葉樹、間伐材のヒノキやスギを使用したユニバーサルデザインのCuttingボードや食器皿、包丁の柄、知育玩具、テーブル、椅子等様々な木工品が展示されました。当日は販売をしていなかった為、金額の問い合わせが多く「購入したい。」という声が高かったそうです。今後も当研究会では未利用材を利活用した商品開発が期待されるところです。

県産地域未利用材利活用促進研究会は、長崎県内で木材生産の為に植林されたスギ・ヒノキや地元で自生する広葉樹など、利活用されていない材（未利用材）を活用するため、県の呼びかけで建築・木工関係業者や林業研究会などによって設立されました。「ながさき森林環境税 ふるさとの森林づくり事業」を活用しています。クラウドソーシングにてデザインを公募し選定後、試作を行い、商品開発に向けて月に1回集まり協議してきたそうです。作品は令和2年2月10日（月）佐世保市役所イベントホールにてセンダンやクスノキ、ムク



（問い合わせ先）

県産地域未利用材利活用促進研究会  
会長 ㈱坂元木工工藝 代表取締役 坂元崇  
電話 0956-31-7007

## 伊万里木材市況

### 【ヒノキ】

令和2年2月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	15,700	多い	普通	普通
	16~18	小曲り	13,500	多い	普通	普通
	20~22	直	15,400	多い	普通	普通
	20~22	小曲り	13,500	多い	普通	普通

### 【スギ】

令和2年2月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	13,000	少ない	多い	多い
	18~22	小曲り	12,000	少ない	多い	多い
	24~26	直	13,000	少ない	多い	多い
	24~26	小曲り	12,000	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで